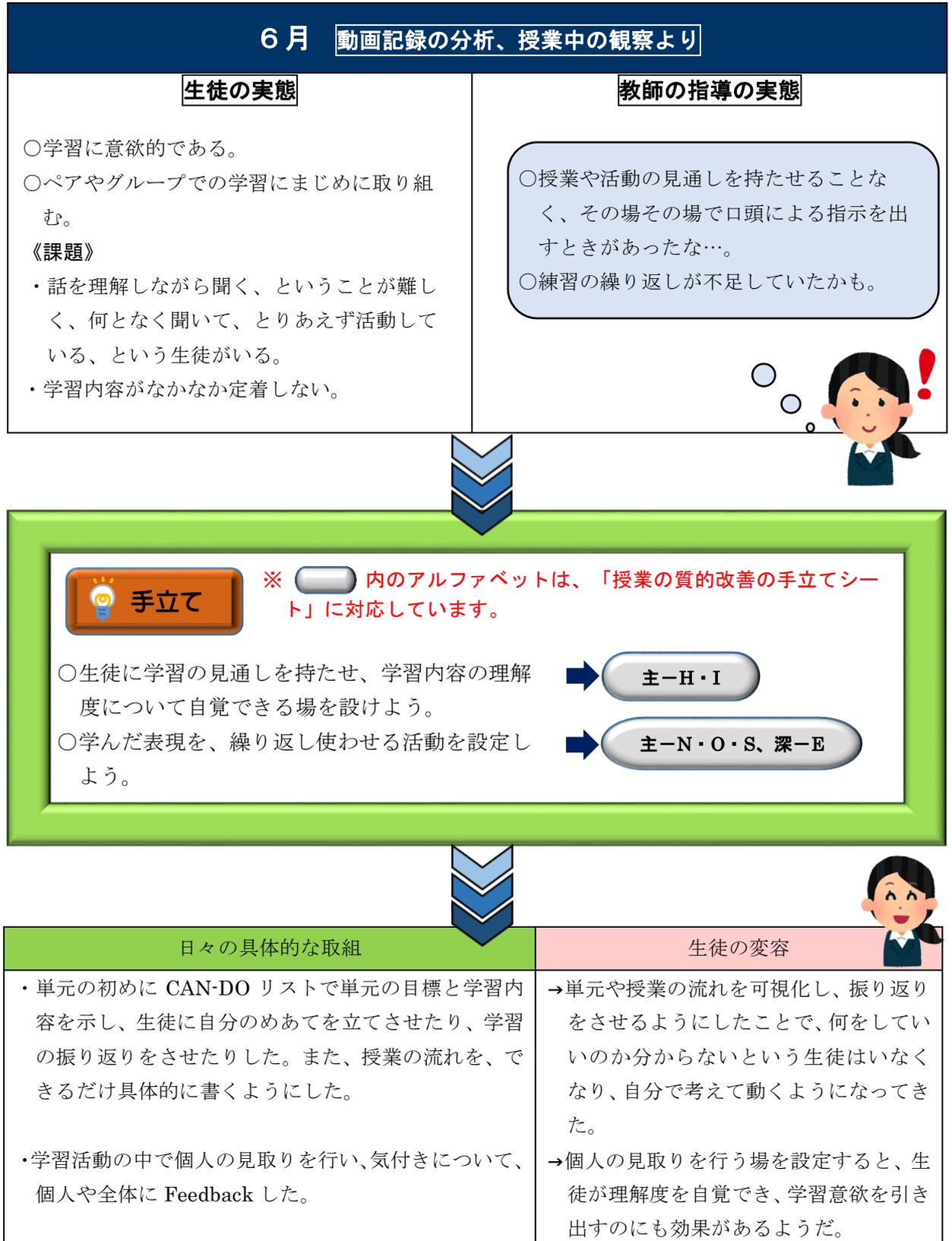


(3) 授業の質的改善のプロセス

(2) で示した授業の質的改善の実践例を紹介します。

ア A 校の実践

(7) 授業改善のプロセス



<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で、生徒の実態を考慮しながらステップ・バイ・ステップでレベルを調整し、繰り返し練習することができるようにした。 ・教科書の内容を基にした表現活動を行った。 	<p>→短時間ではあるが、繰り返し練習することを通して、英語を話すことに慣れ、ペアやグループで楽しんで学習する姿が見られるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の表現を参考にして、自己表現を行うことに慣れてきた。
--	---



11 月 授業中の観察、テストの結果より	
生徒の実態	教師の指導の実態
<p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張っていると思っていたが、1学期の学習内容を確認するテストの結果から、場面に応じて正確に書くことができない生徒が多いことが分かった。定着にかなりの時間が掛かる生徒が多いことを改めて実感した。 ・意味順指導を取り入れているが、疑問文の定着が難しく、正確に使いこなすことができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の目的を確認させたり、成果を確認させたりすることが少なかったかな？ ○練習量が足らなかったかな？書く活動が足りていなかったかな…？生徒に考えさせたり、自由に英文をつくり出させたりする機会が少なかったのかな…？ ○生徒達が表現を正確に習得できない原因の1つに、英語の発音や文構造などに意識を向けることなく、何となく聞いて、何となく発話することを繰り返している、ということが言えそう。活動の目的や、取組のポイントの示し方が不十分だったかな…？



手立て

※ 内のアルファベットは、「授業の質的改善の手立てシート」に対応しています。

- 見通しと振り返りで、学習の成果を自覚させながら進めよう。 → 主-D・F・H・I・U・X、対-G
- 学習内容を活用させる活動を段階的にかつ継続して行おう。 → 主-M・N・O・S、深-D・E・G
- ペアやグループでの学習を充実させよう。 → 対-E・F・J・K・L

(イ) 授業実践 11 月実施

教材 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1

Program 7 The Wonderful Ocean

単元指導計画

1 本単元で主に育てたい力	○キーワードを頼りに「話すこと [発表]」につながる力
2 単元ゴールの活動	「笹森さんを超えるガイドになってニックをお客さんに紹介しよう」 ・メモを頼りに、ニックについて8文以上で説明する。
3 単元学習到達目標と単元で働く「見方・考え方」	・笹森さんのセリフやシャチに関するその他の情報を使って ・ニックたちを見に来たお客さん相手に ・聞き取りやすい英語で分かりやすく話すことを心掛けながら ・メモを頼りにガイドを行う
4 ゴールの達成に向けた取組	① 単元の初めに単元ゴールを提示し、学習の目的を生徒と教師が共有する。そして単元を通して、単元ゴールの達成につながる言語活動とフィードバックを段階的に繰り返し行う（動画記録、ワークシート、自己評価表）。 ② 原稿なしで説明したり、やり取りを行なったりすることに慣れることができるように、帯活動を工夫する。 ③ 教科書本文やその内容に関連した話から、単元ゴールの活動に必要な語彙・表現や文の構成を学ぶことができるようにする。学んだことを使いながら、新たな英文を作り出す練習を通して、それらの定着を目指し、英文を作り出すことに慣れることができるようにする。 ④ 人の話をしっかり聞いて理解する必然性がある学習課題を設定する。 ⑤ ペアやグループでの学習を通して、協力して学習課題を解決したり、互いに知っていることを共有したりできるようにする。 ⑥ 単元の途中で、単元ゴールに近い活動に挑戦させ、その際に生徒と教師が改善点を共有し、ゴールの活動に向けてのステップアップにつなげる。

導
入

黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
 桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
 緑色の付箋：深い学びの視点からの意見

・じゃんけんで決まった学級代表は、ペアで話した内容を思い出ししながら、ニックの紹介を行った。残りの生徒は、よく聞いて内容を覚えておき、発表後、ペアで協力して発表者が話した内容を再現した。



・ペアリングで配慮がされていて、安心して学習に取り組むことができていた。〔B〕

・ペアでの活動が多く設定されており、パートナーと共に活動をやり遂げようとする姿がたくさん見られた。〔J〕

・英文を正確に言えなかった生徒も、教師からの Feedback により即時に修正することができていた。〔G〕

・ペアリングに配慮がされていて、ペアでの活動がうまく機能していた。課題を達成するために、協力して学習活動に取り組むことができていた。〔J〕

・考えた英文を実際に口に出し、ペアで正確さを確かめ合っていた。〔E・F・J〕

・相手の言うことをよく聞いて答えるという活動がペアで行われていたので、相手の作った英文から学ぶことができる良い機会になっていた。〔E・J〕

・ペアでの活動の後、代表の生徒による発表を聞き、その発表内容を再びペアで協力して再現する場が設けられていた。人の発話をよく聞いて表現を学ぶことにつながっていた。〔E・J・K〕

1 UP → 見取りで出た気づきを集約し、全体で共有する。→他の生徒にとっても、新たな気づきや知識を得る機会となる。〔G〕



・これまでに身に付けた知識や技能を活用し、ニックへの質問をするということを意識しながら英文を作ろうとしていた。〔G〕

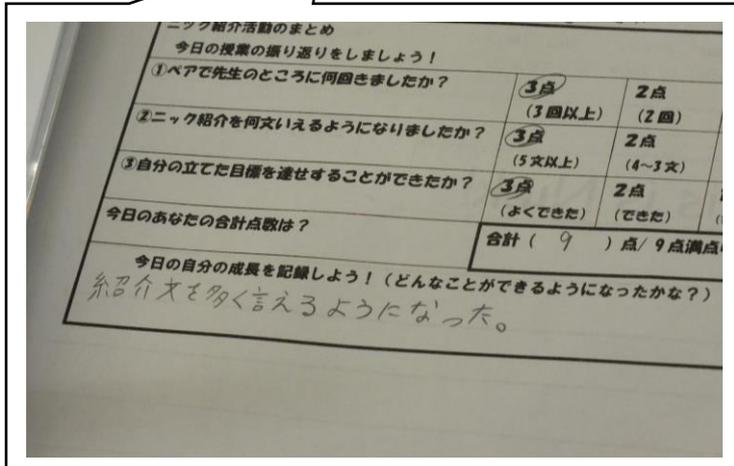
<p>導 入</p>	<p>3 見通しを持つ。</p> <p>・学習のめあてを音読し、学級全体で本時の活動について確認した。</p>	<div data-bbox="603 152 1077 286" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見 桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見 緑色の付箋：深い学びの視点からの意見</p> </div> <div data-bbox="209 383 943 501" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて：笹森さんになったつもりで、ニックの紹介をしよう！</p> </div> <div data-bbox="264 562 887 1010" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">  <p style="text-align: center;">ニックの 写真</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なゴールを示したことで、生徒はゴールをはっきりとイメージして学習活動を進めることができた。〔R〕 ・ゴールの達成に必要な情報を集めようと、生徒は熱心に学習活動に取り組んでいた。〔N〕 ・生徒の現在の学習到達状況を考え、少し上を目指すような単元ゴールの設定がされていたので、生徒はやる気を持って各学習活動に取り組んでいた。〔S〕 <div data-bbox="991 808 1465 987" style="border: 1px solid purple; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 UP → 全体で本時の目標を確認した後、各自で達成目標を設定させる。→自分ができているところとできていないところについて、より具体的に自覚できる。〔J〕</p> </div> <div data-bbox="991 1032 1465 1391" style="border: 1px solid purple; padding: 5px;"> <p>1 UP → 自分ができているところと、できていないところを確認させる時間を設定し、学習活動後には振り返りを行わせる。→具体的な目標を持って学習に取り組むことができる。また、学習後の自身の変容を自覚し、自信を付けさせることや、新たな学習到達目標を持たせることにつなげることができる。〔X・Y〕</p> </div>
<p>展 開</p>	<p>4 新しい表現を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現に関わる写真と ALT の Teacher Talk を手掛かりに連想し、導入される表現が何なのか推測した。 ・ALT と一緒に発音練習を行った。 <div data-bbox="491 1727 895 2029" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">シャチの写真</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の提示や Teacher Talk を通して、生徒が思考したり、自分の考えを伝えたりする必然性を持たせていたので、生徒は意欲的に活動していた。〔D〕

展 開	<div data-bbox="512 165 986 293" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見 桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見 緑色の付箋：深い学びの視点からの意見</p> </div>	<div data-bbox="970 203 1458 495" style="background-color: #ffff00; padding: 10px;"> <p>1 UP → 相手に自分の情報を伝えるときに、声の大きさや発音、アイコンタクトなどに関わるゴールを提示しておく。→各項目について、学習到達目標を意識した練習ができる。〔Q〕</p> </div>
	<div data-bbox="325 577 887 999" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>	<div data-bbox="970 506 1458 1140" style="background-color: #ffe6e6; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・既習表現を用いて英文を作り出す際に、グループ内で学び合う姿が見られた。〔J〕 ・既習表現を用いて英文を作り出す中で、グループの仲間と相談しながら修正を加えたり、構成について考えたりしながら、よりよい説明ができるよう努力していた。〔F〕 <p>1 UP → 学習を通して気付いたことを言語化したり、他と共有したりする時間を設定することで、今後の学習活動がより明確な目標を持ったものになるのではないか。〔N・O〕</p> </div>

6 振り返りを
する。

・振り返りシートを用いて、本時の学習活動について振り返りを行った。

黄色の付箋：主体的学びの視点からの意見
桃色の付箋：対話的な学びの視点からの意見
緑色の付箋：深い学びの視点からの意見



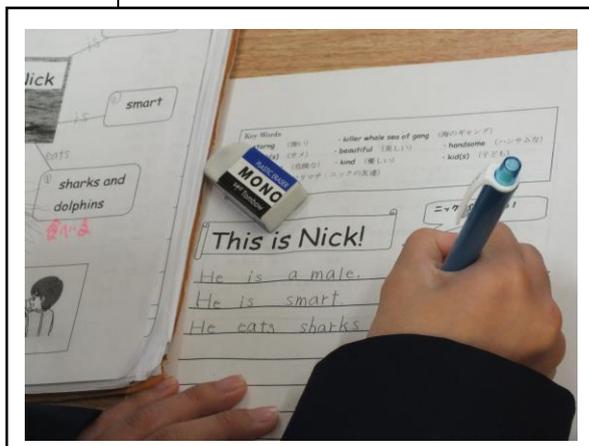
・自己評価表を使い、学習態度や技能について振り返るだけでなく、自分の成長を自覚させる項目を設け、次の学習につなげられるようにしていた。[X]
・授業の内容を振り返る宿題について、意欲と正確さで評価することを伝えていたので、具体的に何を目標に宿題に取り組むのかを意識させることにつながる。[I]

1 UP → 言いたかったのに言えなかった表現をメモさせておく。→家で宿題に取り組むときや次時の授業で、解決に向けて意欲的に学習することが期待できる。[X・Y]

1 UP → 言いたかったのに言えなかったことや、うまく伝わらなかったものなど、ペアで振り返りを行わせる。振り返りの内容についてはメモを取らせ、後の学習に生かすことができるようにする。それらを集約し、後日にクラス全体で共有すると、新しい発見や学びにつながることを期待できる。[M・N・P]

・宿題が授業の内容を「書くこと」で再現するというものだったので、生徒は改めて本時の発話を振り返ることができ、特に正確さについて改めて意識する機会になると思う。[F・G]

1 UP → 言いたかったのに言えなかったことが、単元ゴールの活動で言えるようになるよう、今後の授業の中で疑問を解決できる場を設定していく必要がある。[F]



ま
と
め

第 1 学年 英語科学習指導案

1 単元名 PROGRAM 7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、主人公のユキとマイクが北海道の釧路沖でシャチウォッチングに参加し、ガイドの笹森さんからシャチの説明を聞くところから始まる。Section 1 では、ユキがパンフレットを見て、笹森さんのことを知り、彼女がシャチ、イルカやクジラについて研究していることをマイクに教える。Section 2 では、マイクとユキは、笹森さんからシャチの説明を聞く。Section 3 では、笹森さんのイルカの説明に対してマイクやユキが質問をすることによって、イルカのことを詳しく知る内容である。この教材を通して、「海のギャング」と呼ばれ、どう猛なイメージのシャチが、実は家族を大切にしていることや、室蘭沖のイルカが豊かな海で伸び伸びと子育てをしている様子を通して、自然の素晴らしさ、大切さを感じ、身近な自然を大切にしたい気持ちや育みたい。また、笹森さんが行うシャチの説明を通して、「Show & Tell」の仕方を学ぶことができる教材である。

言語材料としては、①Who is that boy? He is my friend Tom. (疑問詞の who とその答え方)、②This is my friend Miki(Takeshi). I like her (him). (人称代名詞目的格 him/ her)、③When do you usually clean your room? On Sunday mornings. (疑問詞の when とその答え方)が新しく紹介されている。疑問詞を使った疑問文を学ぶことで、質問の幅が広がるとともに、自分が聞きたいことを増やせるチャンスでもある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、まじめに授業に取り組む生徒が多い。全体的に学習した内容は理解しているが、自信がなく、積極的に発言をしない生徒が多い。また、活動に集中できず、学習内容の理解に影響することもある。しかし、7月に行われたアンケート結果より、「TTの授業をすることで、勉強が分かりやすくなった」という項目に肯定的に答えた生徒が 82%おり、TTの授業を肯定的に感じている生徒が多い。中1 TTを行うことや、ペア活動や協働学習を取り入れることにより、苦手な生徒が少しでも授業に参加できるように仕向けていくことが必要だと考えられる。

また、期末テストでの「自己紹介文」では、正しい語順で書けてはいるが、スペルの誤りが多く、質問文に関しては、正しい語順で書けない生徒が多い。定着に時間が掛かる生徒が多く、家庭学習が十分でないことが原因の一つだと考えられる。

(3) 指導観

佐賀県では、「佐賀メソッド」を取り入れた授業づくりを行っている。「佐賀メソッド」とは、「自ら発信する力・人と関わり合う力」を培うために、学期ごとのプロジェクトゴールを達成するための単元ゴールを設定し、活動への意欲を高める手立てを取り入れながら、生徒に Small Output 活動や Output 活動といった、4技能を統合した言語活動に繰り返し取り組ませる指導方法のことである。

今学期は、プロジェクトゴールを「人を紹介しよう」とし、それにつなげるために Program 7 の単元ゴールを「ニックについて紹介しよう～私達がニックのためにできること～」とした。それらのプロジェクトゴールを達成するために、Small Output 活動では、Questions & Answers making & Solving (以下 Q&A Making 活動)や Read Between the Lines and Write (以下 RBL & W 活動)を仕組んでいく。

前述の課題を踏まえて、生徒の発話量を増やしたり、試行錯誤しながら英文を作り出させたりする場面を設ける。Section 1の帯活動では、「ニックにインタビューしよう」という目標を設定し、ペアでニックについての質問とその答えを言い合うQ&A Making活動を行う。また、Small Output活動において、メモに書かれた、教科書にないニックの情報を人に伝える活動や、その情報を基にペアでニックについての紹介文を作る活動を仕組む。次のSection 2では、「笹森さんになったつもりでニックをお客さんに紹介しよう」という目標を設定し、笹森さんによるニックの紹介を基にRBL & W活動を行う。最後に、ニックへのメッセージを書かせることで、既習の語彙・表現を活用する場面を作る。

基礎・基本の定着を図るために、「意味順」を活用した授業を行っていくとともに、フォニックスを取り入れながら、単語を書く指導を取り入れている。さらに、自分の書きたいことを書くだけでなく、相手を意識した、まとまりのある英文を話したり、書いたりできるように指導をしていきたい。その際、自分の考えや意見をまとめるときには、メモやマッピングを活用し、情報や思考の整理を行うことが大切だと伝えていきたい。

自信がなく、発言することが苦手な生徒や、話をじっくり聞くことができない生徒もいるので、話したり聞いたりする必然性がある活動を設定したり、個別に声を掛けたり、理解を確かめたりするなどの手立てを取ることにする。また、授業と家庭学習の内容をリンクさせ、授業で学習した内容を振り返ったり、強化・補充したりすることができるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 間違いを恐れずに、ペアやグループで対話しようとする。
- (2) 本文の内容を理解し、既習単語や英文を使って、海の生き物についてスピーチをする。
- (3) who, when, him, her を用いた文の構造を理解する。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れずに、ペアやグループで対話しようとしている。 ② 分からない単語や英文は自分で辞書を使ったり、意味順を考えたりしながら、自分の力で表現しようとしている。	既習の単語や英文を使って、ニックについて紹介し、コメントを話したり、書いたりすることができる。	英文を聞いたり読んだ後、マッピングを使って情報を整理し、適切に内容を理解することができる。	疑問詞 who, when, 代名詞 him, her を用いた文を理解している。

5 単元計画 (全 8 時間 本時 2 / 8)

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ガイドの仕事について知り、ガイドをする際のポイントを知る。 ・笹森さんやシャチのニックに関する情報を Teacher Talk で知る。 ・疑問詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み、会話の内容を知る。	ア①② エ ウ	活動の観察 後日ペーパーテスト
2 本時	○ニックについて情報を整理する。 ・ニックについてマッピングをする。 ・マッピングを参考に、笹森さんになったつもりで、シャチのガイドを行う英文を作り、発表する。	イ	活動の観察 ワークシート
3	○笹森さんの説明を読み、ニックについてもっと知る。 ・代名詞 him, her を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み、会話の内容を知る。 ・笹森さんの説明からニックについて情報を知る。 ・ニックに関する情報をマッピングに付け加える。	エ	活動の観察 後日ペーパーテスト
4	○笹森さんになったつもりでニックをお客さんに紹介する。 ・教科書 p. 71 の笹森さんのスピーチにニックの情報を英文で付け加える。 (RBL&W 活動)	イ	活動の観察 ワークシート
5	○マイクやユキが笹森さんに尋ねたことを知る。 ・疑問詞 when を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み、会話の内容を知る。	エ ウ	活動の観察 後日ペーパーテスト
6	○笹森さんになったつもりで、イルカについてガイドをする。 ・対話の内容を参考にし、説明文に直し、イルカについて説明する英文を作成する。	イ	ワークシート
7	○笹森さんになったつもりで、ガイドをする。 ・カードに書かれている情報を基に、海の生き物を説明する英文を作成する。 ・ガイドになったつもりで、スピーキング練習を行う。	イ	活動の観察 ワークシート
8	○笹森さんになったつもりで、ガイドの発表をする。 ・グループで発表する。 ・本単元の振り返りをする。	イ	活動の観察 録画記録
	○後日スピーキングテスト（発表とやり取り）を行う。	イエ ▼	スピーキングテスト

6 本時の目標

マッピングを見ながら、ニックについて 5 文以上で話すことができる。(外国語表現の能力)

7 本時の展開

過程	学習活動	○教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価の方法
導入	1 帯活動 1 を行う。 Q&A 活動 2 帯活動 2 を行う。 ペアでインタビューする人とニックの役を決め、Q&A Making 活動を行う。 3 見通しを持つ。	●正しく読めない生徒に T1, T2, ALT が発音を教える。 ○ニックへの質問と答えをペアで作らせる。 ○作った英文を T1, T2, ALT それぞれの所へ言いに来させる。 ○教師は、口頭による描写に対して、修正を行う。 ○ニックの紹介文を作らせる。	
展開	4 新しい表現を学ぶ。 5 Small Output 活動 ニックを紹介する英文を作る。 (1) 英作文グループでマッピングを見て、ニックの紹介文の英文を作成する。 (2) 英作文グループで作ったニックの紹介文を 30 秒程度で言えるように練習する。 (3) 発表グループを作る。 (4) 各英作文グループの紹介文を 30 秒程度で順番に発表する。聞き手はメモを取る。	○ALT は新出表現に関わる写真を提示し、生徒とのやり取りを通して、意味を推測させる。 ○音読練習をさせる。 ○ALT は、モデル文を提示する。 ●英語の語順で話しているかを確認する (T2, ALT)。 ○分からない単語は、辞書を引くように促す (T1, T2)。 ●読めない単語は教える (T2, ALT)。 ○なるべく暗記を促す (T1)。 ○話すときのポイントと、聞くポイントを教える。聞き手には、メモを取らせる (T1)。 ○話し手と聞き手の進行が上手に行われているかを確認する (T1, T2, ALT)。	活動の観察

めあて：笹森さんになったつもりで、お客さんにニックの紹介をしよう！

	(5) 英作文グループに戻り、発表グループで聞いたことを班員に伝える。 (6) (5)の情報を基に、ニックの紹介文を作り、練習する。	○得た情報を、まとまりのある内容にするようにアドバイスする。	
まとめ	6 振り返りをする。 ・振り返りシートの記入をする。	○振り返りシートの記入をさせる。 ○宿題として、新しい情報を付け加えながら、ニックの紹介文を書くことを伝える。 ○次時の予告をする。	ワークシート (後日評価)

8 本時の評価

評価規準	マッピングを見ながら、ニックの紹介を5文以上で話すことができる。		
判断する めやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	ニックの紹介を6文以上で話すことができる。	ニックの紹介を5文で話すことができる。	(B)に達していない状況
→(B), (C)と判断した生徒への支援		→マッピングを見ながら、言いたいことを確認させる。	→穴埋め形式のお助けシートを配付する。
評価方法	行動観察, ワークシートの記述		

ニック紹介活動のまとめ 今日の授業の振り返りをしましょう!			
①ペアで先生のところに何回きましたか?	3点 (3回以上)	2点 (2回)	1点 (1回)
②ニック紹介を何文いえるようになりましたか?	3点 (5文以上)	2点 (4~3文)	1点 (1~2文)
③自分の立てた目標を達せることができたか?	3点 (よくできた)	2点 (できた)	1点 (努力必要)
今日のあなたの合計点数は?	合計 () 点 / 9 点満点中		
今日の自分の成長を記録しよう!(どんなことができるようになったかな?)			

資料1 本時の振り返りシート

自分のスピーチをチェックしてみよう!		
1	相手に伝わる声で発表ができています	Good So-so Bad
2	相手が分かるような速さで話すことができています	Good So-so Bad
3	相手の目を見て話すことができています	Good So-so Bad
4	身振り手振りを使って発表することができています	Good So-so Bad
5	一文伝え終わったら、時間をおき、伝えることができています	Good So-so Bad
6	英語らしい発音になるように気をつけて話ができている	Good So-so Bad
7	○スピーチをする際に、どんなことに気をつければ、相手に伝わりやすいスピーチになると思いますか?	
()年()組()号 名前()		

資料2 スピーチ自己評価表

Card 1

ニックの家族

- ・大きい
- ・男
- ・強い
- ・サメやイルカを食べる
- ・ニックのホームは「海のオアシス」

由紀の絵

Card 2

This is Nick.

ニックの家族

- ・家族がいる
- ・子どもがいます
- ・家族の頭
- ・家族と生活している
- ・いつも、家族を見ている

由紀の絵

Card 3

This is Nick.

ニックとニックを見に来た人たち

ニックの家族

- ・親切に、集ってくる
- ・本意がある
- ・その本意の裏切り、ソリマチ
- ・ソリマチは、かえりない
- ・しかし、最近ソリマチとニックはこない

由紀の絵

Card 4

This is Nick.

ニックの家族

- ・美しい
- ・ハンサム
- ・サメやイルカを食べる
- ・危険な動物
- ・とても優しい

由紀の絵

資料3 ニックの紹介カード